

## リンゴの機能性表示食品の開発

### 背景・目的

リンゴ生産地域の維持・安定には、

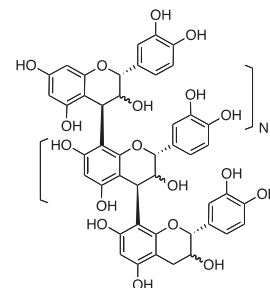
◇省力・低コスト化によるリンゴ生産基盤の強化

◆リンゴ及び加工品の高付加価値化、バリューチェーンの構築

◇国内外の販路開拓、消費拡大

が重要である。

そのため、リンゴでの機能性表示食品の開発が期待されている。



リンゴ由来プロシアニジン

### 研究の内容

#### ①安全性の根拠



#### ②品質の管理



#### ③機能性の科学的な根拠



研究レビューを行い、一日必要摂取量を決定

- ①リンゴは食経験が豊富な食品。リンゴポリフェノールの安全性試験結果が報告されている。
- ②機能性関与成分(プロシアニジン)の分析法を確立。階級、等級によるリンゴのプロシアニジン量のバラツキを調査。
- ③研究レビューによって、『リンゴ由来プロシアニジンは内臓脂肪を減らす』ことが示され、一日必要摂取量(110mg)を設定した。

### 今後の展開

◇「ふじ」以外の品種にも応用・拡大

◇ドライフルーツなどの加工品について機能性表示食品の開発



プライムアップル！ふじ  
(届出番号:C385)

### 参考

庄司俊彦、「リンゴ由来プロシアニジン類の機能評価と機能性表示食品の開発」、化学と生物、55(9)、631-636、2017。



農研機構  
食品研究部門

代表研究者： 庄司 俊彦  
所 属： 食品健康機能研究領域  
食品機能評価ユニット